

皮膚科

医 長 : 浅越 健治 スタッフ : 医長、常勤医、レジデント、専攻医、非常勤医師(水曜日のみ) 各1名

「概要と特徴」

- 地域の中核病院として、いわゆる皮膚科の common disease から急性期病院として対応すべき疾患まで幅広く診療にあたっています。
- 外来診療: 湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、膠原病、細菌・真菌・ウイルス感染症、乾癬、皮膚腫瘍などの診断、検査、治療
- 入院診療: 皮膚悪性腫瘍、重症感染症、自己免疫性水疱症など難治性皮膚疾患、膠原病、重症薬疹、アレルギー性疾患、などの検査および治療
- 当院皮膚科で特に重点を置く領域(※1)

-急性期病院の皮膚科診療-

1. 皮膚腫瘍(特に悪性腫瘍)の診断と治療(図1)

診断、検査から外科的治療、集学的治療まで行っています

皮膚悪性腫瘍治療の拠点病院です(皮膚悪性腫瘍指導専門医施設)

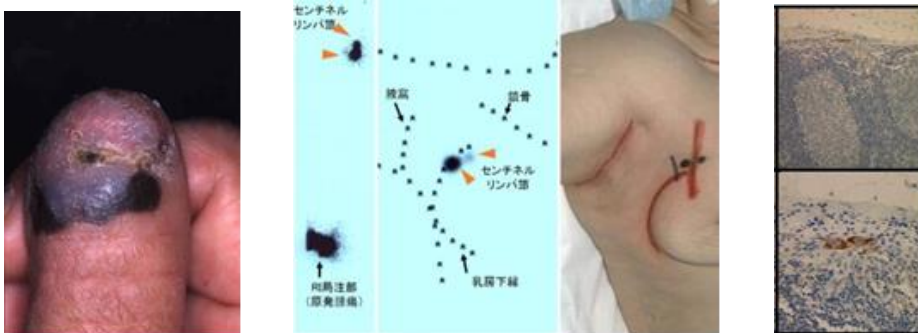


図1: 悪性黒色腫のセンチネルリンパ節生検。

右母指原発巣(左)、リンパシンチグラフィ(中)、リンパ節への微小転移(右)

2. 難治性皮膚疾患の診断と治療

乾癬、アトピー性皮膚炎、自己免疫性水疱症、膠原病、脱毛症、など

3. 皮膚病変を伴う全身疾患の診断と治療(図2)

膠原病、血管炎、血液疾患、など

4. 他科疾患の皮膚合併症への対応(図3)

皮膚感染症、薬疹、など

5. 皮膚科の救急的疾患への対応(図4)

急性炎症性疾患、感染症(細菌、ウイルス)、など

6. 新生児、小児皮膚疾患への対応

(当院では周産期～小児医療が充実しており数多くの症例を経験できます)

湿疹・皮膚炎、感染症(ウイルス、細菌)、などの一般的疾患先天性皮膚疾患、
遺伝性疾患の皮膚症状、膠原病、など

7. 皮膚病理診断(図5)



図2:皮膚筋炎の Gottron 兆候、mechanic's hand(左)、間質性肺炎を合併(右)



図3:重症型薬疹(スティーブンス・ジョンソン症候群)



図4:壊死性筋膜炎の症例。緊急デブリドマンを要した

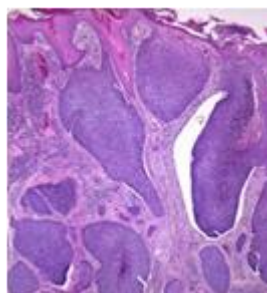


図5:皮膚病理組織検査。基底細胞癌の臨床所見(左)、組織所見(右)

「初期研修の基本的方針」

- 単なる見学でなく、参加型の研修を目指します
できるだけ研修医自身が患者さんの話を聞いて、皮疹を見て、考えて、assessmentしてもらおうようにしています
- 担当医の指導のもとで、検査や基本手技を実際に行ってもらいます

「研修目標」

(一般研修医)

- 皮疹の特徴をつかみ、違いを認識できるようになる
- 皮疹を言葉で表現できるようになる:皮膚科医と共通認識を持てるようになる
- 皮疹からどの系統の皮膚疾患か鑑別できるようになる(皮膚炎、角化症、感染症、など)
- 基本的な検査を実施し、結果をある程度判定できるようになる
(真菌検査、細胞診、アレルギー検査、皮膚生検、皮膚超音波検査、など)
- 皮膚科で用いる外用剤の種類を知る
- ステロイド外用剤の強さによる使い分けができるようになる
- 頻度の高い腫瘍性疾患を知る
- 全身疾患の特徴的皮膚症状を認識する
- 基本的な皮膚外科手技を習得する

(Advanced course)

- 全身疾患の特徴的皮膚症状を認識する
- 各種皮膚疾患の検査、治療計画の組み立て方を知る
- さらに詳細な検査の施行と判断ができるようになる
(特に皮膚超音波検査、ダーモスコピー、皮膚病理診断、など)
- 基本的な皮膚外科手術の実施

「研修予定表」

行 事	曜 日	時 間
外来診療・見学	月～金曜日	8:30～13:00
手術	月・火・木曜日	午後
病棟回診・処置	月～金曜日	朝夕
臨床カンファレンス	水曜日	16:00 頃～
組織カンファレンス	木曜日	夕刻
講義	不定	夕刻

「指導体制」

医長、常勤医師、レジデント、専攻医、非常勤医師(水曜のみ)各1名が対応します

「経験可能な症例」

- 代表的皮膚疾患は経験可能です
- 急性期病院の皮膚科診療に重点をおいています。上記を参照して下さい(※1)

「経験/習得可能な手技、検査」

- 皮膚外科手術：切開法、縫合法など
- 創傷処置
- 外用療法
- 皮膚生検
- 皮膚アレルギー検査：プリックテスト、パッチテスト
- 微生物学的検査：真菌検査、細胞診(図6)

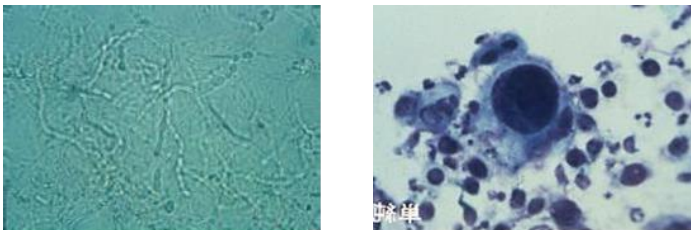


図6:白癬菌鏡検(左)、ヘルペス細胞診(右)

- ダーモスコピー(図7)



図7:ダーモスコピーによる診察(左)、悪性黒色腫のダーモスコピー所見(右)

- 皮膚超音波検査

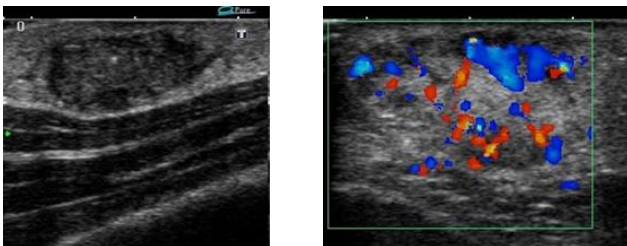


図8:石灰化上皮腫の超音波所見(左)、皮膚血管腫の超音波所見(右)

- 皮膚病理組織診断

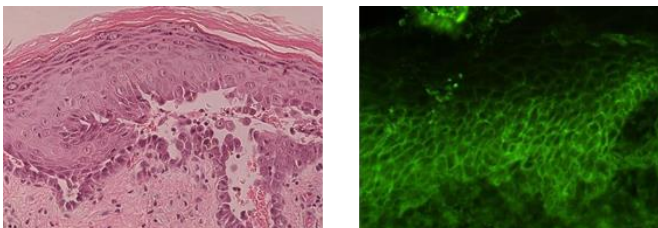


図9:尋常性天疱瘡の病理組織所見(左)、蛍光抗体法(右)

「後期研修について」

- 将来的に皮膚科を目指す方はもちろん、他科医師を目指す方が皮膚科をもう少し深く研修したい方にもお勧めです
- 岡山大学病院皮膚科の後期研修プログラムと連携します
- 日本皮膚科学会専門医:所定の臨床研修を5年以上行い、講習会、学会発表、原著論文発表による必要単位取得者に専門医試験受験資格が与えられます
- さらに大学院進学や上級指導専門医(皮膚悪性腫瘍指導専門医、など)取得を目指すことも可能です

「研修責任者よりひとこと」

- 皮膚科学は案外奥深い。
- なぜ皮膚科研修を選択するのか？
皮膚科専門医を目指そうかな・・・
形成外科や膠原病内科を考えているが皮疹の見方を勉強したい
皮膚病理も勉強したい
救急外来で皮膚疾患を診られるようになりたい
ちょっと暇そうだから休憩したい
なんとなく
- 動機は何であれ大歓迎です。
- できるだけ個々の希望に合わせた研修をしたいと思います。

「研修希望時の連絡先」

国立病院機構岡山医療センター皮膚科 浅越 健治